

# 年頭の挨拶

公害等調整委員会委員長 荒井 勉

1 明けましておめでとうございます。昨年は、西日本豪雨をはじめ、大阪、北海道胆振東部等では大地震など、自然災害が相次ぎました。漢字一文字に表すと「災」、新語・流行語大賞においてはトップテンの中に「災害級の暑さ」も選ばれたところ  
です。

地方公共団体の皆様方におかれては、自然災害への対応に大変ご苦労された1年  
だったと言えましょう。

2 昨年末には、全国の公害苦情の受付状況や処理状況などの実態を、皆様のご協力を  
頂き、取りまとめ、「平成29年度公害苦情調査」として結果を公表致しました。調査結果によりますと、直接処理がなされた典型7公害の苦情について、処理の期  
間は、1週間以内が全体件数の2/3、1ヶ月以内が3/4となっており、住民の  
ニーズの迅速に対応していただいている結果が表れております。

住民から寄せられている公害苦情は、その多くが公害紛争の前段階あるいは初期  
段階でもあり、窓口での苦情への初期対応が極めて重要となります。苦情相談での  
対応は、仮りに苦情相談では解決せず、このまま放置すれば問題が大きくなる場合  
等には、都道府県公害審査会等の「調停」や国の公害等調整委員会の「裁定」を適  
切に紹介していただくなど、制度全体の連携にとっても重要な役割を担っているも  
のであります。

3 都道府県公害審査会等の公害紛争については、平成29年度、41件を新規に受け  
付け、前年から引き継いだ事件と併せて80件が係属し、うち同年度中に43件が終  
結しております。調停成立事案については、当事者双方の互譲を促すに当たり、審  
査会等の委員や事務局の皆様が様々な工夫をされていたり、残念ながら打切りとな  
った事例においても、粘り強く双方に働きかけていらっしゃるなど、多大のご尽力  
を頂いているものと承知しております。

4 このため、当委員会としては、「公害紛争処理連絡協議会」、「公害紛争処理関係  
ブロック会議」及び「公害苦情相談員等ブロック会議」などにおいて、最新の公害紛  
争事例の調査・分析の結果をはじめ、公害紛争処理をめぐる様々な論点、公害紛争  
の動向、公害苦情処理の実情等について、情報共有や解決方法の検討などを行って  
まいりました。各地方公共団体における研修会や講習会、あるいは説明会などへも、  
要望に応じて、当委員会の職員や公害苦情相談アドバイザーを派遣してまいりまし  
た。

本年も引き続き、公害苦情と公害紛争の処理という制度の両輪がうまく機能するように、市区町村、都道府県と国との情報共有・連携強化に一層努めてまいりたいと思っております。

- 5 また、公害問題の解決に向けた窓口として、市区町村、都道府県、国の3つの相談・申請先があることについては、まだまだ認知が足りない部分もあるのではないかと、常々感じております。当委員会としては、去年は、月刊広報誌『総務省』への掲載をはじめ、環境分野の業界誌への寄稿、政府広報オンライン（インターネットテキスト広告）や首相官邸メールマガジンなどの広報を行いました。

本年早々にも、ラジオ番組（FM系全国ネット）での広報番組、法曹向け業界誌や地方公共団体向け判例雑誌等への寄稿など、地道に広報活動を進めて参ります。

- 6 さらには、公害担当部門以外の関係機関との連携・広報の観点から、各裁判所への原因裁定嘱託制度等の説明、各都道府県の弁護士会や日本司法支援センター（法テラス）、総務省行政相談センター等との情報・意見交換などを行っており、本年も様々な関係機関を訪問することとしております。

- 7 今年は「平成最後の年」となりますが、これまで当委員会が公害紛争の迅速・適正な解決を図る役割を果たせたのも、市区町村、都道府県の担当部局の方々のご理解、ご協力があったからこそと存じます。これからの新しい時代においても、国民、住民のため、より良い社会のため、公害紛争処理制度を適切に運用してまいりたいと思っておりますので、引き続き皆様のご支援をお願いいたします。

最後に、今年が皆様にとっても素晴らしい年でありますよう祈念いたしまして、私からの年頭の挨拶といたします。